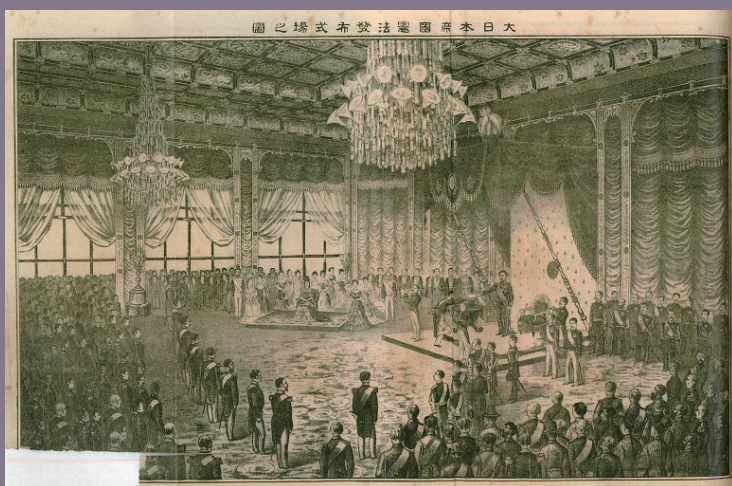


風俗画報

大正5(1916)年まで全518冊が刊行されました。創刊当時(明治22(1889)年)の紙面をご紹介します。

風俗画報とは

風俗画報とは、日本画や写真を豊富に取り入れて、江戸・明治・大正時代の日常生活・出来事・世相等を紹介した日本初のグラフィック雑誌です。第1号には、発刊された趣旨として、「人事を始め土木、工藝、器財、動物、植物其他遊戯の末に至るまで現時は勿論其搜索し得らるる限りは往古にも遡り歴史工藝の参考に供し沿革を知る用に宛てんとす」(第1号「発行主意書」とあります。



第3号大日本帝國憲法宣示式場之圖



第3号三月の月花見の風景



明治22(1889)年創刊

明治憲法発布式

明治22(1889)年に、明治憲法が公布されます。風俗画報第2号と第3号では、憲法発布式を描いた絵画や式典次第のほか、「幾百万の人民は宛ながら狂するが如く皆大典奉祝の用意に奔走」するとともに、「両陛下及び国家の萬歳を唱え君が代紀元節等の唱歌を謡う又數百本の煙火を打揚ぐる等」して憲法発布をお祝いする様子が紹介されています。

東京歳時記

風俗画報第3号では、「3月」の歳時記として墨田区向島の堤の景色が紹介されています。手習いの師匠が弟子を引き連れて花見に来ていたり、扮装した芸人が様々な茶番狂言をして人々を笑わせるなど、桜並木を背景に花見でにぎわう様子がうかがえます。

